

環境に優しい鉄鋼製品特集の発刊にあたって

Remarks on Special Issue on Steel Products as Environmentally Friendly Materials



副社長

寺門 良二 Ryoji TERAKADO

ヒットライト人が鉄器の強さを利して小アジア・メソポタミア方面に進出してから4千年になる。そして現在、毎年約6億トンの鉄鋼が生産され、60億人の生活を支えている。

産業革命によって鉄鋼生産は飛躍的に増加した。これまでの鉄鋼生産の累計は約300億トンと見られ、約130億トンの鉄の蓄積があると推計されている。戦争や事故で沈んだ船、地中に埋設された構築物等、失われたに等しい鉄も相当に多いと思われるが、大半は貴重な再生資源として循環利用されてきた。人類が活用してきた鉄の長い歴史の重みがこれらの数字の中にあり、今もなお、その流れを私達が引き継いでいる。

現在の人間が生産している金属の90%強を鉄が占めている、まさに鉄は圧倒的な存在感を示している。今日、“人口の激増、資源の有限性、地球が持つ環境容量の限界等が人類の未来を不確実なものとしている”との警鐘が鳴らされている。新日本製鐵も昨年、環境報告書を発刊しました。企業も資源の循環、環境負荷の軽減への取り組みはもとより社会に対し環境を軸とした経営の姿をこれまでで

上に示してゆくことが必要になりました。

最近実施された高校生の科学技術に対する意識調査では、科学技術の進歩を肯定的に受け止めるばかりでなく、生活環境の悪化を含め不安要因を殖しているとマイナスの意識を持っている生徒が多いと報告されている。科学技術を応用し人の生活を利すべき製品が、意図せざる理由であっても人や環境を害するものであれば、将来にわたっての支持を得ることはできない。

当新日鉄技報371号は“環境に優しい鉄鋼製品特集”であります。真に環境に優しい鉄鋼製品として広く社会から受け入れられるものにまでなったか、意に反し、私達の自己満足に過ぎないか、多くの社外の方々からのご批判やご評価を頂かなければと考えます。こうした意味からも、当特集号は環境報告書と共に新日鉄madeの2000万トンを越える鉄鋼製品が社会の中でどのように使われ、環境との関係をどのように認識し、技術の開発を通じてどんな改善を試みようとしたか、その成果として、環境に優しい鉄鋼製品をご紹介することを目的に編集しました。新日本製鐵は、環境問題への取り組みを経営の最重要な柱としました。研究者、技術者、営業マン、全ての新日鉄マンは継続して社会に受け入れられる新日鉄madeの鉄鋼製品を目指し改善を続けてゆきたいと考えています。この特集号を契機に新日鉄madeの鉄鋼製品と共に、それらを研究開発し、製造し、販売する新日鉄マンの考動(著者造語)に対し社外の方々からこれまで以上のご指導を頂けることになれば誠に有り難いことと存じます。日頃のご愛顧にあらためて感謝申し上げる次第です。